

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業タイトル (科目名)  障がい児に対する心理的支援	授業の種類  ( 講義 ・ <b>演習</b> ・ 実習 )	授業担当者  板垣 寛	当該科目に関する 実務経験  臨床心理士 児童相談所相談員 児童発達支援センター 相談員
授業の回数  15 回	時間数 (単位数)  30 時間 (1 単位)	配当学年・時期  2 年・前期	必修・選択  必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>インクルーシブ保育において発達障害児や気になる子に対する保育上の配慮では、障害児の心理的側面に関する知識を持っていることは非常に重要である。この科目では、さまざまな障害に関する応用として、心理的側面を軸とした障害児への支援方法を学ぶことを目的とする。</p> <p>[授業の全体の概要]</p> <p>保育や教育の場面を例にとれば、障害をもった子どもの保育・教育には、その障害の特徴に合わせた特別な配慮が必要だということを意味している。この授業では、障害をいくつかの種類に分け、その特徴、原因を理解するとともに、障害をもつ子どもがどのような心理状態に陥りやすいかということ进行学习する。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 特に発達障害児についての理解を深め、それぞれの障害を持つ子どもへの働きかけ (育児・保育・教育) のあり方について具体的に考えることができる。</li> <li>2) 障害児をもつ家庭への支援について深く理解し、自分がかかわるとしたら、どのような働きかけが適切であるかについて説明することができる。</li> <li>3) 「障害児」と「障害を持たない子ども」を区別することの意義について考察し、そのことが、障害児にとってプラスになるようにするには、どのような配慮 (条件) が必要であるかについての考えを述べるることができる。</li> </ol>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 知的障害児の心理的特徴</li> <li>2. 知的障害児への具体的支援方法 (インリアル・アプローチ)</li> <li>3. 運動障害・肢体不自由児の心理的特徴</li> <li>4. 運動障害・肢体不自由児への具体的支援方法 (とけあい動作法、コミュニケーションループ)</li> <li>5. 学習障害児の心理的特徴 (二次障害)</li> <li>6. 学習障害児への具体的支援方法 (ひらがなカード、フィンガーペインティング)</li> <li>7. ADHD 児の心理的特徴 (二次障害)</li> <li>8. ADHD 児への具体的支援方法 (環境整備、人員配置、行動療法)</li> <li>9. 自閉症スペクトラム障害児の心理的特徴 (二次障害)</li> <li>10. 自閉症スペクトラム障害児への具体的支援方法 (パニック予防)</li> <li>11. 視覚障害・聴覚障害児の心理的特徴 (二次障害)</li> <li>12. 視覚障害・聴覚障害児への具体的支援方法 (点字・墨字、正眼児との協力)</li> <li>13. 障害児をもつ家庭への支援 (親子関係への心理的援助)</li> <li>14. 障害児をもつ家庭への支援 (ペアレント・トレーニング・慢性的悲嘆、過保護への支援)</li> <li>15. 期末試験</li> </ol>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>田中農夫男・木村 進編著『ライフサイクルからよむ障害者の心理と支援』福村出版、2009 年</p>			
<p>[成績評価の方法と基準]</p> <p>教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考查点 (75%)           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。</li> </ul> </li> <li>・ 平常点 (25%)           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。</li> <li>・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul> </li> </ul>			

